

思いがけずシステム担当者になってしまったら —OPAC を DIY で充実させる— 【第 1 部】

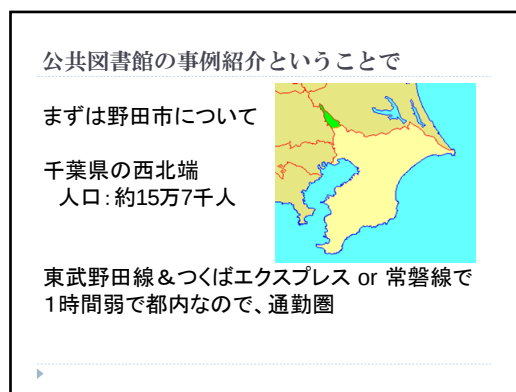
野田市立興風図書館 川嶋 斉

1.

野田市立興風図書館の川嶋と申します。本日はよろしくお願いいたします。

先ず、私が働いている野田市立興風図書館と、野田市について簡単に説明させていただきます。

野田市は、千葉県の西北端に位置し、人口は約 15 万 7 千人。都心まで一時間位で着きますので、通勤圏になろうかと思います。



野田市内の図書館は全部で 4 館あり、中央館を興風図書館といいます。この図書館のみが直営で、他 3 館は、現在指定管理者という状況です。

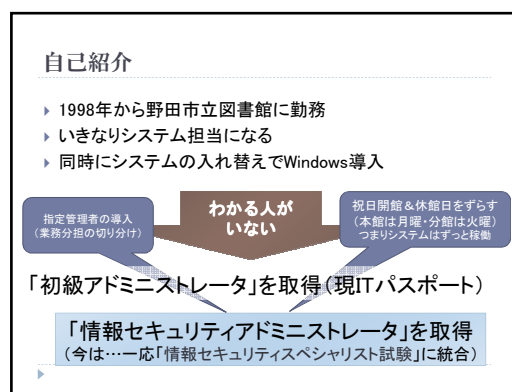
一年間の貸出点数は、109 万 3 千点。この内、Web での予約が、大体 10 万 7 千点あります。貸出全体の一割、また、予約点数 16 万点の内の七割が、Web での予約で処理されている、という



のが、野田市立図書館の現状です。

では、自己紹介を簡単にさせていただきます。1998 年から野田市立図書館に勤務をして、システムの担当になりました。同時期に、システムの入替えもあり、「初級システムアドミニストレータ」という資格を目標に大慌てで勉強しました。今は、「IT パスポート」という資格に変わっています。

その後、指定管理者の導入や、休館日を本館と分館でずらすため、図書館システムをずっと動かすこととなり、「IT パスポート」だけでは頼りなくなってしまったので、「情報セキュリティアドミニストレータ」という資格も取りました。

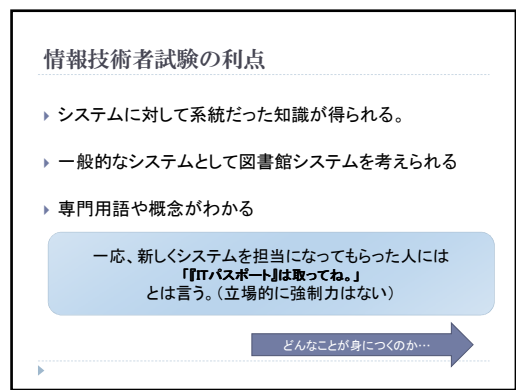


このような、情報技術者試験を受ける利点は、先ず、システムに対して系統だった知識が得られる点です。図書館のシステムといっても、所謂システムですので、コンピューター上、或いはネットワーク上で動いている物として理解することができます。

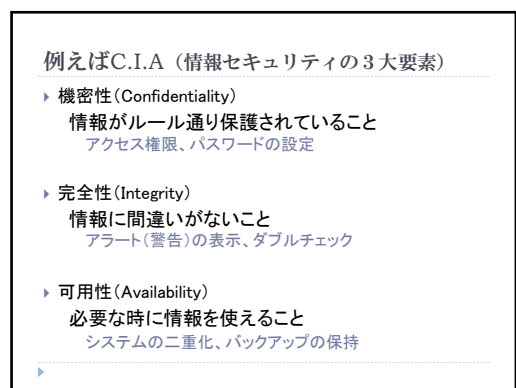
次に、一般的なシステムとして、図書館を考えることができることです。「図書館システムだから」ということがほぼないので、汎用的な考え方ができるようになります。

また、専門用語や概念が分かるようになるとい

うこともあります。業者さんと話していると、専門知識や概念などが業者さん同士の会話では、ばんばん飛び交っているのに対し、こちらはよく分からないことがあります。そういうことがなくなります。



どんなことが身に付くか、具体的に一つ挙げます。「C.I.A、情報セキュリティの3大要素」というものがあります。機密性(C)、完全性(I)、可用性(A)、の3要素です。



機密性というのは、情報がルール通りに運営されていること。例えば、閲覧してはいけない人は閲覧できない。発注してはいけない人は発注できないように、システムがなっていることです。

完全性というのは、間違った操作がされていないこと。間違いに気づき易くなっていること。

可用性というのは、必要な時に何時でも情報を使えることです。例えば、停電とか故障に対応できる、ということになります。

対応策としては、アクセス権限、パスワードの設定、アラートの表示、ダブルチェック、システ

ムの二重化、バックアップの保持、という感じです。システムのセキュリティというのは、漠然とした概念ですが、分割して考えることで、具体的な対策が立て易くなります。

2.

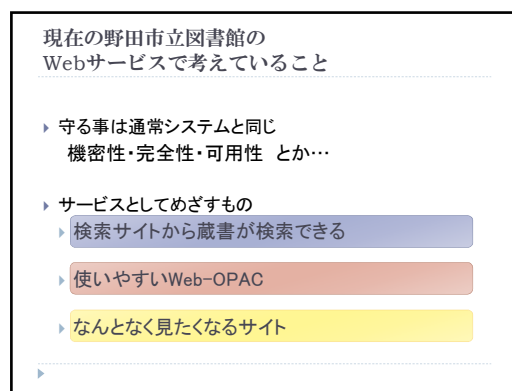
今回はOPACがメインの話なので、Web OPACに話を進めたいと思います。ただ、Web OPACといっても、システムであることに変わりませんので、他の利用者の情報が見られないように、など、守るべき部分は通常のシステムと同じような対応が必要になります。その上で、システムベンダーさんと話し合いました。

図書館のWeb サービスとして目指すものが何かは、今でもよく分かりません。取りあえず、三つを目標にしようと考えました。

一つが、検索サイトから蔵書が検索できるようにすること。Googleなどで検索した時に、もしその図書館に蔵書があれば、検索結果としてヒットするようになってほしい、と。

もう一つは、勿論Web OPACとして使い易いものであってほしい、と。

それから、もう一つは、なんとなく見たくなるサイト。本を探しているから図書館に行く、のではなく、何かないかなと思って来てくれるような図書館のサイトを目指してみよう、と。



この3つで、Web サービスを考えてみました。現在の野田市立図書館のサイトは、「web-OPAC+」

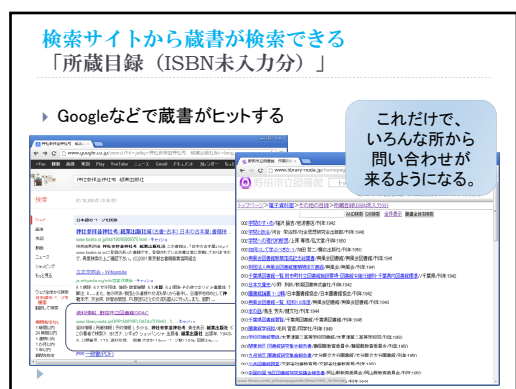
など、色々なサービスをしています。サービスの内容は、先程紹介したスライドの色分けと共通にしています。



3.

まず、検索サイトから蔵書が検索できる、というのは、蔵書目録をどのように公開するか、ということです。これは Google の検索画面ですが、ここにタイトルと出版社が入っていて、3 番目くらいに、「野田市立図書館 OPAC」と検索結果に出るようになっていきます。

難しいことは全くやっておらず、ホームページ上に、こういう一覧のページを作っています。この一覧のページ一枚に、大体 700 の書誌が入っていて、それが 100 ページ位あります。あとは、Google などのクローラーに探してもらい、検索エンジンに登録してもらう手法です。



OPAC とは直接関係しませんが、やってみると今まで千葉県内の図書館のみだった問合せが、色々な所から来るようになりました。こういうこ

とをちょっとやるだけでも、サービスの対象を考える機会になります。

4-1.

次に、使いやすい Web-OPAC。何が使い難いのかを、先ず考えてみました。実際はもっと色々なことがあると思いますが、私が思いついたのはこんな感じです。厳密なキーワードでないと検索ができない、或いは、書誌情報だけで、本がどういう物か分からないとか、です。

使いやすいWeb-OPAC

何が使いづらい？

- ▶ 厳密なキーワードでないとヒットしない
- ▶ 書誌情報だけでは本をイメージしにくい
- ▶ 所蔵資料しか検索できない
- ▶ 図書館にどんな資料があるか分からない

とりあえず
自分で
作ってみる

ただ、利用者は、Web OPAC を図書館のサービスだと分かっていますが、インターネット上で、Google や Amazon の検索サービスと比べてどうなのかを、考えるようになります。それにどう応えるかと考えて、今回は、「とりあえず自分で作ってみる」という方法をとってみました。

4-2.

「厳密なキーワードでないとヒットしない」ことには、二つの対策を取っています。

一つは、入力サポート「猫の手」と呼んでいるサービス。これは、トップページの検索画面に「あ」と入力すると、文字列の中に「あ」が含まれる著者、タイトル、件名などの検索候補を表示する仕組みになっています。

これによって、うろ覚えでも何となく、一覧から選べるようになります。検索語については、年

間 10 万 7 千点ある過去の Web 予約統計からとるようにしています

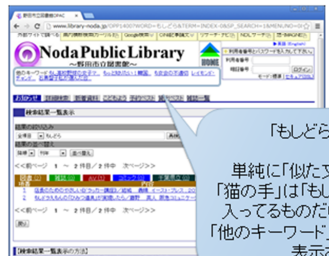
厳密なキーワードでないとヒットしない
対策：入力サポート「猫の手」



- 文字を入力すると検索語候補が表示
- 検索語は過去のWeb予約統計から作成

もう一つは、検索結果画面の上部に表示される、「他のキーワード」。「もしどら」と検索すると、一番はじめに「もし高校野球の女子マ…」と出てきます。ただ、これは文字が似たものを検索するので、「レイモンド・チャンドラー」なども出てきます。検索語を似た意味で表示するのは難しいので、意味では全く調べていません。

厳密なキーワードでないとヒットしない
対策：「他のキーワード」



「もしどら」の結果。
単純に「似た文字列」を表示。
「猫の手」は「もしどら」の文字列が入っているものだけが表示される。
「他のキーワード」は類似していれば表示される。

「猫の手」と「他のキーワード」で使っているものを、「サジェストリスト」といっています。過去一年間の Web 予約のベストの表記と読みのデータを取り、くっつけます。「猫の手」や「他のキーワード」の時に、この文字列を検索して表示するようにしています。どんなデータかは、レジュメにある URL にアクセスして、ご覧になってみて下さい。

(<http://www.library-noda.jp/homepage/info/suggest/suggestlist.csv>)

「猫の手」「他のキーワード」で使っているもの
「サジェストリスト」

▶ 過去1年のWeb予約上位(7000程度)のタイトル・作者・件名を抽出

件名	よみがな	表記	よみがな
料理	りょうり	よしたに	よしたに
人生訓	じんせいくん	三谷幸喜	みたにこうき
作者	よみがな	料理	りょうり
よしたに	よしたに	人生訓	じんせいくん
三谷幸喜	みたにこうき	地球の歩き方	ちきゅうのある...
タイトル	よみがな		
地球の歩き方	ちきゅうのある...		
ビブリア古書堂...	びぶりあこしょ...		

一つにまとめる

グループ化(重複を省く)すると、12000件程度。600KBのCSVファイル
<http://www.library-noda.jp/homepage/info/suggest/suggestlist.csv>

4-3.

「書誌情報だけではよく分からない」ことへの対策に、「web-OPAC+」を提供しています。

これは、簡単にいうと、Web OPAC を書き換える、ということです。例えば、この本『野田のトリビア 100』のリンクに、「カーリル」や「Webcat Plus」を表示し、クリックすると本の詳細な情報が出るようにしています。そうすると、ここに載っていないなくても、クリックすれば、どんな本か分かる仕組みです。

書誌情報だけではよく分からない
対策：「web-OPAC+」



外部サイトへのリンクを生成。簡単に詳しい情報を取得できる

カーリル Webcat Plus

「Webcat Plus」と「カーリル」を選んだのは、それぞれ理由があります。「カーリル」は、本の絵がとても大きい。カウンター業務で、利用者に表紙画像を見せると、「こんな本だった」という回答が非常に多いので、見たことのある本を探す時は、「カーリル」へのリンクが非常に便利です。

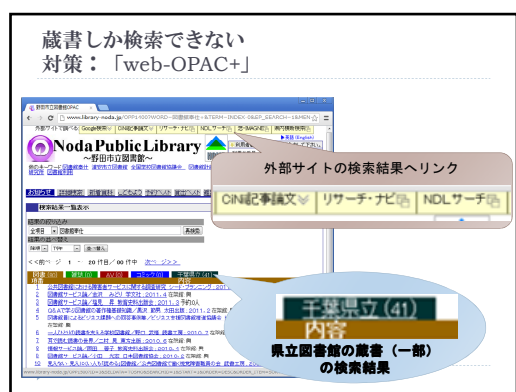
「Webcat Plus」は、本の解説と目次といった詳細情報が載っており、どんな本か分からない時は、こちらを紹介して内容を確認しています。何

れも利用者向けのサービスですが、カウンターで自分たちが使うことも大事です。



4-4.

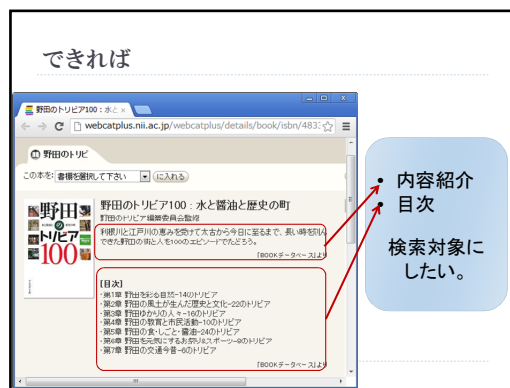
蔵書しか検索できない場合の対応も、基本的には「web-OPAC+」を使っています。外部サイトへのリンクを張ることで、蔵書検索と同じ検索語のまま、クリック一つで「リサーチ・ナビ」や「NDLサーチ」、「CiNii」などを検索できます。もう一つ、これは「web-OPAC+」とは関係ありませんが、県立図書館の蔵書検索と予約ができる仕組みにもなっています。



「web-OPAC+」は、Web OPAC の中に JavaScript を仕込んでもらい、JavaScript が利用者側のパソコンで、「他のキーワード」や外部サイトへのリンク先を追加して表示する仕組みです。そうすると、こちらの方でファイルを書き換えて、サーバーに載せるだけになるので、システムベンダーさんは何もしなくていい、と。

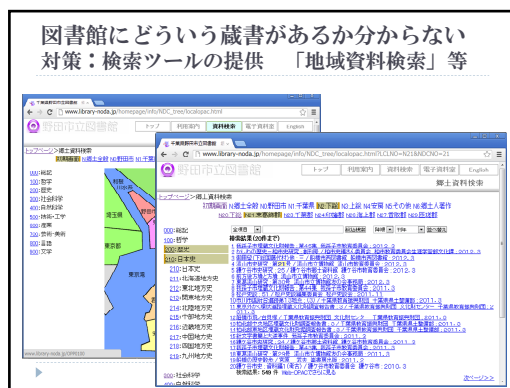
ただ、「web-OPAC+」というのは、検索キー自

体の追加はできないので、例えば「BOOK データベース」が持っている内容、目次のような情報を、検索対象にすることは残念ながらできません。これができるような何かがあればいいな、と思っています。



4-5.

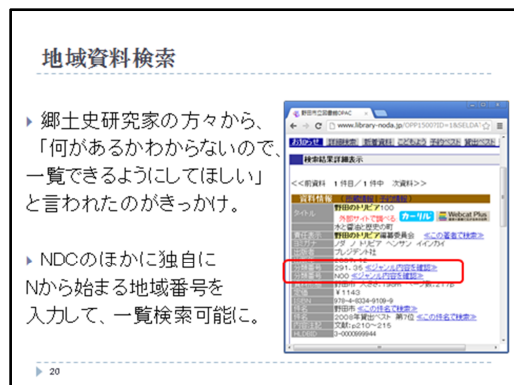
「図書館にどういった蔵書があるか分からない」とは、特に郷土資料の問合せが多いです。野田市立図書館だと、書庫にある資料も多いので、一覧できるような物を、ということで作りました。



検索語でも検索できますが、十進分類 (NDC) 検索と、地域資料検索の 2 パターンを用意しています。これは「web-OPAC+」の変形みたいなもので、OPAC を書き換えて載せている所は、全く変わらない仕組みです。

郷土資料の一覧化は結構難しく、野田市の場合は、分類番号「291.35 (千葉県観光、旅行、地理系の本)」の他に、「N」から始まる地区コードを付与するようにしています。これによって、

トータルな検索、一覧性のある検索ができるようになっています。



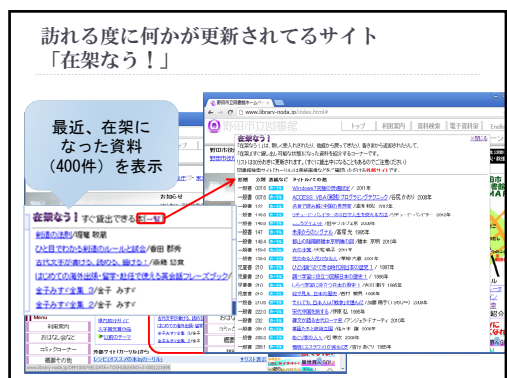
5.

最後は、「なんとなく訪れたいサイト」です。

用事がなくてもちょっとサイトに行ってみよう、という感じにしたい。そうすると、サイトを見て、図書館に行ってみよう、と思うことになります。或いは、お知らせとか臨時休館といったことも、利用者に届きやすくなって、サイトも見よう、という効果もあります。

どうするのかというと、できるだけ更新頻度を上げるのが、一番の近道です。ただ、これを自力でやるのはちょっと大変なので、外部サービスやプログラムを活用して、更新を自動化しています。

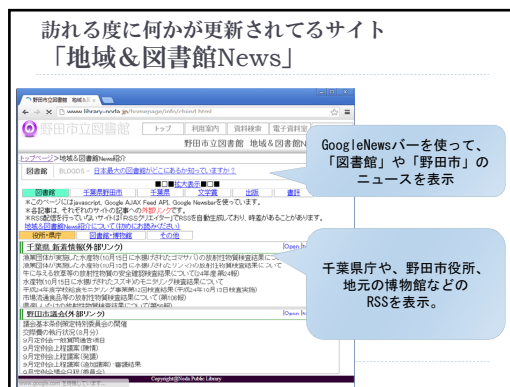
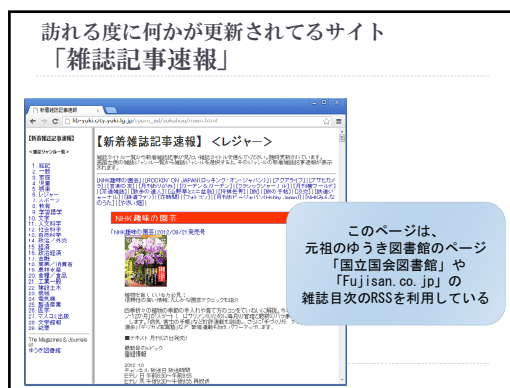
「在架なう！」とは、最近在架になった本のリストです。返却された本、受入作業が終わった本など 400 件を一覧で出す仕組みです。最初の画面では、400 件の中から 6 件ほどのデータが、アニメーションで 5 秒おき位に次々と変わるようになっています。



もう一つは、「カーリル・レシピ」です。これは、自分でテーマを決めて、そのテーマの本を何冊か紹介する、という物で、毎日色々な本が紹介されています。これをトップページに表示することで、利用者へ本を紹介する機能の代わりにしています。



「新着雑誌記事速報」は、十数館で採用されている、雑誌の最新号の RSS を使って、雑誌の内容を見るための仕組みです。仕組みさえ作れば、後は国立国会図書館と、Fujisan.co.jp が更新をやってくれるので、非常に楽にできます。



この仕組みを応用して、県庁や市役所等のサイ

ト更新の RSS、お知らせの RSS を使い、地域の情報をまとめて紹介することもやっています。

6.

野田市立図書館がこれまでやってきたことを紹介していますが、当館の Web サービスのテーマは、「タダでできること。継続してあまり手が掛からないこと」です。

そのための手段の一つが、JavaScript の活用です。それから、公開されている外部 Web サービス、RSS の活用。

使えそうな物は使っていく、というやり方をしています。

あとは、SQL や Access による、出力データの活用。「サジェストリスト」や、ISBN なしの蔵書目録などは、基本的に SQL や Access を使って、自動で出力される仕組みになっています。

JavaScript だ、外部サービスだ、といわれると、ちょっと敷居が高いな、と思われるでしょう。ただ、例えばホームページの所在地を表示する GoogleMap などは、既に多くのサイトで使われている、外部情報の活用といえます。画像にマウスを重ねると表示が切り替わるのも、JavaScript です。こういう簡単な JavaScript は、色々なところで使われていますし、JavaScript や外部 Web サービスを使うから大変、ということは特にありません。

野田市だけだと、説得力もないので、他館のサービスを紹介します。

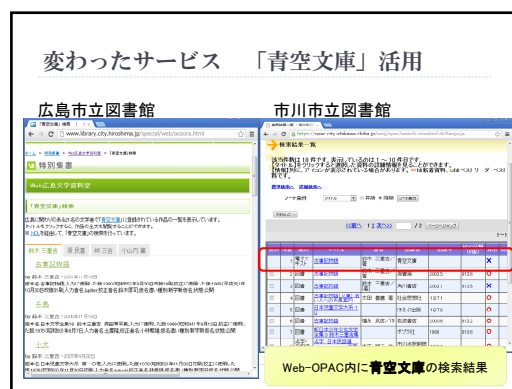


京都府立図書館では、ウェザーニュースのブログパーツを使い、天気予報を公開しています。ブログパーツを用いた、簡単に作れるサービスです。

板柳町民図書館は、GoogleBookAPI を使って、Web OPAC 上に表紙画像を表示しています。https で通信すると、表示前にアラートが出るブラウザもあるので、若干使いづらいですが、表紙画像を簡単に表示する仕組みとしては、非常に使い易いと思います。



著作権切れの資料を Web 上で公開している、「青空文庫」の活用例は、広島市立図書館の「Web 広島文学資料室」。郷土出身の作家の「青空文庫」を、リストで紹介しています。市川市立図書館の場合は、Web OPAC の典拠リストとして、「青空文庫」が検索結果の中に含まれる仕組みです。



このように、外部情報の活用や、JavaScript を使うことは、色々なサイト、色々な図書館で普通に行われているといえるでしょう。

7.

以上

(フォーラム開催日 2012 年 11 月 20 日)

「必ずしも自分でやる必要はないよ」ということを、最後にいっておこうと思います。

野田市立図書館の、「千葉県立図書館」の蔵書検索。板柳町民図書館の、「GoogleBookAPI」を使った表紙画像。市川市立図書館の、「青空文庫」検索。これらはおそらく、図書館員が独力でやっている物ではありません。

野田市の場合は、先ず、成田市さんがこういうサービスを始めた、というのを聞きつけたので、是非真似をしたい、と。でも、お金がないから、なんとかならないの、という話で、システム業者さんと打合せを重ねて、現在の形になりました。

プログラムを書けるよりも、こういうサービスがあるとか、自分の図書館はこういう仕組みで Web サービスを動かしている、ということを知っている方が大事なのです。

最後になりましたが、多くの利用者は、Google や Amazon といったサービスを体験していて、それと図書館の Web サービスを比べています。

その中では、お仕着せの Web-OPAC のみで、利用者の納得する図書館の Web サービスを構築するのは難しいのではないか、と思います。

そして、Web サービスをしているのは、システム業者ではなく図書館なのです。利用者の質問に対して「業者さんが〇〇というのでできません」と答えてしまうのは、利用者の側からすると違和感があると思います。

Web OPAC と Web サービスは、当然イコールではありません。Web OPAC を使って、どんなサービスをしていくのかが、おそらく今、図書館員に求められていることなのだろうな、と思います。

ということで、公共図書館の私の発表を終わらせて頂きたいと思います。ありがとうございました。